

週刊アミューズメントジャパン

2018年(平成30年)

9月10日
月曜日

編集・発行所 株式会社アミューズメントプレス ジャパン 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F TEL.03-5447-0555 http://www.amusement-japan.co.jp

ギャンブル依存問題

パチンコのいいところ

回復支援グループが勉強会

「依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会」が2日、都内の遊技会館で、「人にとっての娯楽と居場所を考える」をテーマにギャンブル依存問題の勉強会を開催した。依存問題を抱える人向けではなく、依存問題の支援に携わる人・携わりたい人を対象としたもので、パチンコの肯定的な側面に目を向けた。



依存の問題にかかわる支援者と共に学ぶ勉強会を開催している「依存問題の勉強会」は、浦和まはる相談室の高澤和彦氏(精神保健福祉士)が代表を務め、稲村厚氏(司法書士)、認定NPO法人ワンデーポットが中心になって運営している。依存問題を抱える人一人ひとりを個別的に理解するよう努力し、生活支援、環境調整、人生支援の視点から支援を考えるとという立場だ。

武田裕明氏
(ニラク 法務部)



戸田有希乃氏
(ニラク 経営企画室)



「生活づくり・環境調整の視点から見た依存問題基礎講座」として定期開催している勉強会が今回取り上げたテーマは、「人にとっての娯楽と居場所を考える」というもので、パチンコが、人の生活にとって不可欠な娯楽の場や居場所になっているという側面に目を向けた。

小林正俊氏
(アメニティーズ 営業支援部係長)



西ヶ谷敏行氏
(マルハン マルハン吉田店長)



めに、パチンコホール企業の従業員をプレゼンターとして招いた。登壇したのはニラクの武田裕明氏(法務部)、戸田有希乃氏(経営企画室)、マルハンの西ヶ谷敏行氏(マルハン吉田店長)、アメニティーズの小林正俊氏(営業支援部係長)の4人。それぞれが、現場で来店客

と接している中で、「パチンコホールは必要とされている」と感じたエピソードなどを発表した。福島県を中心に店舗を展開するニラクの武田氏は、東日本大震災による休業を経て営業を再開する直前、「正直なところ、こんな大変な状況でお店を開けても、どうせお客様は来ないだろう、パチンコどころじゃないだろう」と思っていた。

「パチンコで他人とのコミュニケーションは必須ではないけれど、ホールでの人とかかわりが好きな人、必要としている人は一部ではあるけれど、それが8年半働いた実感。ホールはそういう方々の受け皿になっているのではないかと、

「最初、ありがとうの

意味がわからずとまどいました。こちらは以前通りにお店を開いただけというつもりだったので。しかも、我々従業員のことを心配していたとおっしゃった。そして気づいたんです、「自分たち、必要とされているじゃん」

「パチンコ店は地域になくならない場所なんだ」と。大震災の直後という時期だけど、胸を張って営業しようという気になれました(武田氏) 戸田氏は自身の体験として、「ホールに新人が入ると必ずお客様から『新しく入った子?』などと声をかけられるし、昇進してユニフォームが変わったスタッフは、偉くなったのね?と喜んでもらえる」と、やりとりがあることを紹介。

「パチンコで他人とのコミュニケーションは必須ではないけれど、ホールでの人とかかわりが好きな人、必要としている人は一部ではあるけれど、それが8年半働いた実感。ホールはそういう方々の受け皿になっているのではないかと、

「最初、ありがとうの

ホールの役割を捉えているとし、「だからこそ遊技産業は、お客様に負担をかけ過ぎていないかなど、遊技の提供の仕方方を改めて考えなくてはならない」と述べた。

アメニティーズの小林氏は、従業員が日常の営業の中でお客様と交わした会話から「井戸端会議」的な対話事例をいくつか紹介し、地域の人々のコミュニケーションが生まれる場になっていることもホールの「いいところ」とした。

マルハンの西ヶ谷氏は、前任地の「マルハン富士宮駅南店(静岡県富士宮市)での、開店1時間前に来店し、同じく開店待ちをしているお客様と世間話をし、午後には家族が迎えに来るまで遊技しているという90歳過ぎの常連客の例を紹介。西ヶ谷氏は、「ご家族が、マルハンにいれば誰かが見ていてくれる」と安心して送り出してくれていると、

「最初、ありがとうの

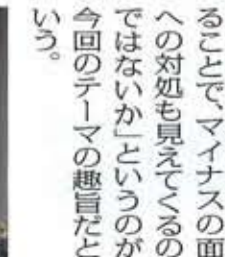
なれると信じて、現場で向き合っています」と報告を締めくくった。

これに続いて、リカバリサポート・ネットワークの立ち上げに携わった、日本社会事業大学の安高真弓(マコト)研究員(精神保健福祉士・社会福祉士)が、社会福祉士(ソーシャルワーカー)を目指す同大学の学生(パチンコ未経験者)を対象にした演習の結果を報告した。

勉強会を運営する高澤氏は、「依存問題の支援に携わる我々に、パチンコのプラスの面が見えてくることで、マイナスの面への対処も見えてくるのではないかと」というのが今回のテーマの趣旨だという。



安高真弓氏
(日本社会事業大学 研究員)



高澤和彦氏 依存問題の支援に携わる人たちの勉強会代表